

石炭記念館だより

第5号

発行
直方市石炭記念館
〒822-0016
福岡県直方市大字
直方 692-4
TEL
0949-25-2243



筑豊御三家

安川敬一郎翁(撫松)は一八四九(嘉永二)年四月十七日、福岡藩の儒学者である徳永貞七(貞夏)の四男として誕生。一六歳の時、安川岡右衛門の養子となった後、一八歳で岡右衛門の四女峰と結婚家督を相続し名を藤四郎から敬一郎と改める。藩校、修猷館に学び一八七二(明治五)年慶応義塾に入塾。一八七四年(明治七)年兄の幾島徳が官軍の小隊長として、江藤新平、島義勇の佐賀の乱の鎮圧のため佐賀に向かうも戦死したため、慶應義塾を中退、帰郷後学業を断念して幾島の仕事を引き継ぎ炭鉱経営に着手した。

安川敬一郎翁



一八七七(明治一〇)年に芦屋で石炭販売業を始め、一八八〇(明治二三)年相田及び庄司炭鉱を経営、一八八六(明治一九)年店を若松に移転。

明治炭鉱を開発。更に一八八九(明治二二)年

赤池炭鉱を開発。一八九三(明治二六)年二男

松本健次郎と二安川、松本商店を設立。父、敬

一郎は炭鉱経営、松本は販売と二人三脚体制を

築く。一九〇七(明治四〇)年技術者養成を目

的として明治専門学校を戸畑に設立。一九〇八

(明治四二)年明治炭業株式会社設立。一

九〇九(明治四二)年明治専門学校(現九州工

業大学)開校。一九一四(大正三)年衆議院補

欠当選、その後一九一八(大正七)年にかけて

明治紡績、安川電機九州製鋼(後に八幡製鉄所

が買収)、黒崎窯業を設立。又、九州鉄道取締

役、若松築港社長、筑豊石炭炭業組合総長、明

治炭業社長、九州製鋼会長を務め一九二二(大

正一一)年経済界から引退した。

松松餘韻

このように、安川敬一郎翁は明治維新後の黎明期に近代日本の建設に対して大きな役割を担い貢献しました。

一九三四(昭和九)年十一月三十日 逝去

八十六歳。

日記抄

不具の旅痕

翁の遺著である「撫松餘韻」の中で、生い立ちから事業の経営に亘る歴史を記した、

日記抄

『不具の旅痕』

の中を紐解くと、

一八九〇(明治二三)年の記に

「二月長女初子生る

春、故岩崎彌之助、故グラバー氏、来県して

炭田地方を視察す。昨年三菱会社にて買収し

たる新入・鯉田両炭鉱の為に、余は平岡

と共に麻生大吉所有の鯉田炭坑買収の・・・」

一八九二(明治二五)年の記に

「筑豊興業鉄道は漸くにして直方まで開通し

たるも僅かに三菱の新入炭を運搬するに過ぎ

ず、是より小竹・飯塚・田川線の急設を企て

つつあり・・・」

一八九八(明治三十二)年十月十八日の記に
「仙石貢と共に下関に於いて井上馨伯と若松
築港に関し協議二時間に亘る・・・」

同年同月三十日の記に

「直方貝島邸にて井上伯を中心に和田製鉄所

長官・仙石貢及び主なる炭坑業者と會し若松

築港拡張案の要を決す・・・」

当時の炭坑の経営者が筑豊を中心に国の興隆

を支えていたことが理解できる文献です。



今年も早、師走を迎えました。スーパーには冬の野菜や果物が並びます。先日、三菱新入炭鉱の炭鉱マンであった、栗田 徳さんから「記念館に飾ってください」と小みかんをいただきました。ご来館の皆さんにもおすそ分けしています。今年一年、沢山の方にご来館いただきました。職員一同、心からお礼申し上げます。有難うございました。新たな年が幸せな年でありますように。